

午後3時28分再開

○議長（手嶋源五君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、18番実藤輝夫議員の質問を許可します。18番実藤輝夫議員。

（18番実藤輝夫君登壇）

○18番（実藤輝夫君） 18番実藤輝夫でございます。今回の一般質問の最後ということで非常に光栄に存じております。

私ごとでございますが、今回の開会日に勤続20年の表彰をいただきました。20年の長きにわたり市政に尽くされ、功績大にして、顕著にして表彰いたしますというような趣旨が書かれておりましたが、これもひとえに私を支えていただきました市民の皆様方のおかげ、たまものだとは心から感謝いたしております。

しかしながら、長きをもつての表彰でございますし、また功績顕著と言われるほど本当に今まで何をしてきたのか、忸怩たるものがございます。昭和54年6月に第1回目の一般質問を登壇いたしまして、この場で旧甘木市の市政についていろいろ述べさせていただきましたことがきのうのこのように思い出されております。その間、三十数年たちました。議員生活は21年余でございますけれども、本当に激動の時代を過ごしたというふうに思っております。これからは原点に立ち戻りまして、議会とは、議員の役割は何かということをもう1度考え直し、市政、そして並びに市民の皆様の幸福安寧のために努力、精進してまいりたいと思っております。

市長を初め、教育長、議会の皆様、そして市民の皆様、浅学非才、まだまだ未熟ではございますが、どうか御指導、御鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げまして、質問席より質問を続行したいと思っております。

（18番実藤輝夫君降壇）

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 早速、通告に従いまして、旧甘木バスセンターを中心とした質問をさせていただきます。

もう総論につきましては、きょうの朝の一般質問、そしてまた先ほどの12番議員の質問も含めまして、現在のバスセンターそのもの、そしてまた周辺も一体的な甘木町の都市活性化のために必要であるということは述べられてきたところでございますし、市長もこれまで3年余にわたります市長の職にありまして御答弁をその趣旨でいただいておりますので、その点、十分にバスセンターが必要性十分にあるということを前提にして伺いたいと思っております。

問題点は、この間、述べられたことによっていろいろ出てきましたが、まずもって端的に、市長が3年間の間に、このバス停の問題についてどのように考え、どのように取り組んでこられたのか、まずこの点をお聞きしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 甘木のバスセンターにつきましては、おっしゃいましたように、私ども子供の時分から、私は安川でありますけれども、バスに乗ってあそこに来て、いろいろ買い物をしたり、うどんとかチャンポンとか食べて、またあそこから帰るといような意味で、非常に当時はいわゆるバスセンターでありましたんで、非常にあそこに乗り入れするバスも多うございましたし、乗降客も非常に多い地域でした。残念ながらその後、これは西鉄の交通の運輸の形態といいますか、いわゆる386を走るバス及びそこから行くいろんな路線が廃止になったりの中で、非常にさみしいものになってまいりました。いろんな経緯の中で、今、西鉄以外のバスについて、残念ながらあの地には乗り入れができないという状況、これは過去のいろんな経過の中でそういう形になったということでもありますんで、そのことについてどうこうという話じゃございませんけども、そういう状況にある。特に今、朝倉市としましては、いわゆる地域交通、公共交通体系のいろんな形で、御存じのようにいろんな、今、公共交通の行ってなかった地域にもバスを走らせて、やろうという形で、今、実際、その事業に取り組んでおるわけですけども、そういったバスが、やはりあそこのバス停に乗り入れをさせていただいて、386を走る西鉄と接続がよくなると。そして、そのことによって非常に住民の方が便利になるだろうということも含めて、私としては今日までいわゆる西鉄との、まずはとにかくバスの乗り入れを何とかさせていただきたいということで今日まで西鉄との話をしてまいったということでもあります。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 端的に市長が何回、いつごろ、誰と、どのような話をされたか、こういったところから2段目として入りたいと思います、よろしく。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） まず、それ以前にもいわゆる担当課長クラスで話があっても、なかなかちが明かんということで、最初は24年の5月に、私、西鉄の本社のほうに出向きまして、いわゆるバスの事業部の本部長とお話をさせていただきまして、こちらの考え方なりをお伝えをして、それではその後、いわゆる担当同士でそのことについて話しましょうということでも来ました。しかし、なかなかそれでも進まないということで、25年の2月に、たまたま今の西鉄バスの副社長が私は昔から存じておりましたんで、実はバスの本部長も、当時一番、名前があるときに、バスの本部長されてた方なんで、その事情もよくやっているとすることを御存じだということなんで、私は副社長にお会いしまして、また同じような話をして、そのときに言われたのは、いわゆるバス事業本部だけでは話にならないだろうと。ほかの不動産部も含めた形の中で、今後、事務レベルで話していきましようという話をいただいて帰ってきたということでもあります。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 話の主体は相乗り、他との西鉄と2つ3つあるんでしょう、市が主催しております、運行させてますデマンド、それから甘観が運行させてます路線バス、

こういったものとの相乗りという話がされております。

まず第1点は、24年の5月に行きましたということですが、大体2年、市長就任から経過してるんです。その間、青木室長の答弁によりますと、その前に事前にちょっと話をしに行きましたという話が、これも一般質問の答弁で出てますので、真偽を問う必要ありません、僕、全部持ってきてますから。2年たって5月のときに行かれて、佐々木運行部長ですか、本部長ですか、とお会いされる。その後、今度は青木室長の話ですね、これが乗り入れの話をしたら、この一般質問のときの回答で、これはデマンドも含めてですけども、25年4月からの市街地循環については、甘木バス停の乗り入れには現在のところ不可能であると、これ一般質問で青木室長が答弁してるものを書きました。それで、その後、バスの乗り入れ、バス停の改善というのが出されてるわけですが、非常に市長、3年たって、幾ら事前があっても、そんなにたくさん事前に市の職員が行ったとも思えませんし、問題点が相乗りの問題が主論議であるということになりますと、後でも明らかにしますが、きょう、コミュニティ協議会の方も来られてますが、それも大事なことなんですけども、それ以上にバス停周辺の整備というのが、私も含めて同じ同僚議員も含めて、特にコミュニティ協議会の皆さん方の中心的なものでもあるように、これは23年の11月に地区要望書としても市のほうに出されております。

私がきょう一般質問しようと思ったのは、巷間、甘木町の地区協議会のメンバー、あるいはその他から、これはならんばいと、西鉄バスの問題は解決せんばいと。なぜか、当時の前に、甘観と西鉄との問題があって、それが尾を引いとるといようなことが、ずっと今、まことしやかに言われております。これは全くの根拠のないことではないと思うんですが、それでもって、幾ら森田市長が行かれてもだめですよという話が、これはどちらかという、森田市長支援の方の話が多いんですよ。私は変な意味でこれをとるつもりは全くありません。とにかく先ほど12番議員が言ったように、甘木をどうかして活性化させ、朝倉市全体の核として、後からも述べますが、そういったうわさみたいなまことしやかに流れてきて、しかも、その相乗りというのは西鉄と甘観、デマンドですら断られてしまって、甘観の話は一般質問の回答には出ておりません、室長はデマンドの問題で25年4月からのということで、24年9月のときにこういう回答を不可能であるという回答をしてるわけですね。今、6月です、4月からして。この相乗りだけをという形で持っていきますと、そこらあたりの感情論みたいなものが本当に西鉄のほうにいまだにあるのかどうか。幾ら、それはもう向こうも営利会社だし、プロですから、市長がお見えになれば、市長以外でも、それなりの方がお見えになれば、腹のうちは別としてちゃんと待遇される、あるいは接待されるのが世の常識ですので、そして俗に言う外交辞令、リップサービスというのが普通出されます。本音のところはどうなってるのかということがないと、これは変なうわさだけで、誰が悪いという形に、この前、私は耳にしました。

そういうことが起こっては、コミュニティ協議会が一体として、今、取り組んで頑張っ

ていこうというのに、この相乗りの問題だけが出れば、その問題は当然出てくる可能性が非常に強い。こういうことではいかんと、整理する部分は整理して、誤解があれば解いて、そして一丸となってこの推進に邁進しなきゃいかんと、こういうことで、きょう一般質問に立っておるわけですが、2回市長、3年のうちに2回、しかも去年の5月、ことしの2月ですが、今、6月ですが、この西鉄バスのほうの回答ですよ、市長に対する、これは具体的にどうですか。今、待ちの姿勢で待ってますと、回答を待ちますということがずっと、いいですか、西鉄からの回答待ち、これは森田市長が24年9月に回答されたものを書いておられますので、私が今、言ってるのは全部、一般質問から引き起こしてますので、言った言わないなんていう話にはならんと思いますので、回答待ちですと、これは24年の9月ですから、その後、2月に行かれてるわけですよ。そして、そういう話がきょう午前中に出ました。13番議員の質問で、まさに乗り入れの問題を話をしてきましたという話がきょうの午前中のとこで出てきました。私はこれは重要な課題の1つであります、まずそこあたりの誤解をクリアしないといかんのだと、本当にこの問題だけで進んでいくのか、市長、どう思われますか。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 答弁の前に、何とかいう話を聞いたと、うわさだと。しかし、これはあくまでも言われるように本会議の場所ですから、根拠のないうわさとか、そういったものをこの場で言われると、これはきちっと議事録に残りますんで、私も非常に心外です、むしろ私の支援者の方から出たと。これは非常に私、心外だということだけ申し上げさせていただきます。

あわせて、先ほど言いましたように、25年の2月に行ったときには、その前に実は青木室長がデマンドの話をしたのは、恐らくこれは甘木だけじゃなくて杷木、杷木も同時にデマンドの話をやりましたんで、そういうことだろうというふうに思います。ただ、私が25年の2月に副社長とお会いして話したときには、もうあれから何年たちますかと、いわゆる甘観の問題です。もうそういうことはいいんじゃないですかという話もさせていただいています。ですから私としてはデマンドだけじゃなくて、やっぱり甘観もいろんな地域走ってるわけですから、一緒に乗り入れをさせていただきたい。ただ、そこで西鉄のほうから出た言葉は、西鉄にとっては、あそこはバスセンターじゃありませんと、1つの通過駅です、西鉄にとってですよ、という話が出ました。ですから、それから先は、私どもとしてはバスセンターみたいな機能が欲しい。しかし西鉄は通過駅だという捉え方しかしてない。じゃあそれから先、話すときに、これじゃ平行線なわけです。当然、次の段階に進まなきゃならん、御理解いただけるとは思いますけど、ただ、つくっていただけという話だけじゃない段階に進まなきゃならん。それは内々の話の中で、担当、いわゆる交渉窓口になってる市の担当者の中で話をしています。ただ、そのことについて、この場ではちょっとまだ相手がある話ですから申し上げませんが、今、そういう形で進ませさせていただきます。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 私も先ほど20年の表彰を受けたということでお礼を申し上げております。一般質問に対しての責任というものを十分に感じております。今のさっきの話は、私が直接聞いた話でありますので、ここで私はそういう誤解があってはいけないと、だからどうですかという話はしておりません。だから、そういうものを誤解を、仲間内でありますコミュニティ協議会を含めて、市民の間から町民の間から出てくるのはよろしくない。だから、ここでそういうことではないようなことをきちんと市長と私が確認をしましょうということによって言ってますので、何ら私は指摘されるようなことはないとは思っておりますので、この点についてはもうこれで終わらしましょう。問題があればいつでも受けて立ちます。

問題は、私はこの前、福岡のほうから帰ってきました、いろいろ考えながら、ぱっと、ずっと普通は行くんですが、甘木側のほうから見てまいりまして、右のほうはやっぱり空間の広がりができるまで、外から見るとぐっと広がった形でそれなりのものがあります。ところが左をぱっと見たら、あちゃ、これは何だというふうな思いをしました。市長も言われますように、何回も、私も帰郷した人、あるいはあちらこちらの方から、かつての西鉄、甘木町のにぎわいというものを知ってる方から見ますと、本当にお粗末なものです。単なる西鉄が言ってるようにバス停の1つであると捉えてしまえば、それはそれなりに待合所がありますので、しかし、私、小さいころから甘木で生まれ、甘木で育って、あそこにいろいろな思い出が残ってるわけですが、今日、どんどん廃れていく中で、やっぱり町の整備と同時に、これは先ほど12番議員からも、区画整理事業から2期工事、すなわち新プラン21に至る経過、これがどうだったのかということずっと話がありましたが、やはり一の矢、二の矢、三の矢ってさっきも話があった、非常に私はいいいこと言ってくれてるなと思ひまして、やっぱり1つのものをつくり上げていくときに、1期工事というのはあくまでも本通り商店街の部分アーケードを撤廃して町並みをきれいにしたということと、途中からでしたけども、これはフレアスというものをつくりまして、これは本当にこの前も一般質問で言いましたように、私は地域振興の成功例の1つだと。

今、ここも利用してる人はかなり多くなりました、1.数倍、1.5倍と言ってもいいぐらいです。私も歴史講座でお世話になっておりますけども、教室が足らんぐらいに、今、利用価値があります。そして有料でそこを利用する。しかも私が一番うれしいのは、キッズコーナーにおじいちゃん、おばあちゃんとお孫さんが遊びに来てやってる、こういう姿は昔は当たり前のことでしたが、今はほとんど見るのがなくなった。これは私は非常にうれしいことで、それと同時に商店街を含めて、そのフレアスを中心にしてもう1つ、ちょうどこの甘木の朝倉市の顔という形で言われますが、核と言われますけども、私は別に角度を変えて、税の負担が、税の納税額がどこが一番多いのか。別に甘木町がどうだこうだということをはげらかすつもりはありませんが、税務課のほう、きょう3番目のほうに出

してはいますが、税金の現状と収納対策という形で、ここに市税が70億円ぐらいあるんです、今、朝倉市は、40億円が固定資産税ですよ、全体の55.5%。これはきょうも甘木町の方、来られてはいますが、私個人、プライバシーの問題もありますが、ここにおられるほかの人と比べて、収入のいかにかわからず、固定評価が高いのか、結構、払っています。私だけでないでしょう。甘木町の固定資産税の担税力は、これ昔から調べてくれと言ったんだけど、地域性を見て調べてくれ、個人個人を調べるわけじゃないんで、中山課長、ことし4月から来られたんでそれは無理なんですけども、前々から言ってるんだけど、それ調べますと、やっぱり地域が浮揚するということが、今、一番、私たちが望んでおる税金を上げていく1つのきっかけになる。今、私が最高時点から半分ぐらいになってはいますよ、評価が、評価額が。個人的にはうれしいことでもありましょうが、市の全体を考えたときにこれでいいのか。

今、本当に国保税をどうするか、収納対策の問題で、また後でやるつもりでありますけど、時間があるかないかわかりませんが、9月にまた持っていきますけども、こういった角度を変えて、ただ単にノスタルジアとかメモリーみたいな形で、何か西鉄バス周辺をどうかしましょうという話じゃなくて、やっぱり朝倉市の核という面と同時に、甘木町という歴史的な、先ほども歴史の話がありました、非常にここが中心的に担税、税を負担してきたという経過がある。今後もやはり一番大きなことだと思います。課長に一々答弁してもらわなくていいように書類を出してもらいました。個人市民税における所得の割合で、2万5,573人のうちに、給与所得者1万9,393人ということ、こういう中の流れで、これ一番多いんですが、営業所得者が5%、数字だけいきます、農業所得者2.7%、その他所得者16.5%です。それから税額にしても、こればらつきがあります。

何が言いたいかという、どこにおいても市町村も含めてですが、会社でも家庭でも、やっぱり中心的なものがしっかりしておるとするのは、家庭、あるいは会社、地域、国、当たり前のことです、これは。これについて、私はこの甘木町の新プラン21で相当の金かけると、ほんで今度は甘木町のバス停のほうにまで金かけるのか、よすぎる、あるいはその効果がないと言われますけども、いろんな意味を考えたときに総合的な、先ほども総合的なという話がありましたけど、本当にそうなんで、1つだけでもって何かを解決しようと、あるいは発展させようというのはなかなか難しい。相乗効果というものを取り入れていかなきゃいけない。

そうすると、今、最後の、最後という言葉はおかしいんですが、重要課題の甘木町の今後の活性化のためには、西鉄バスの甘木駅を整備していくというのが必要ではないか。じゃあこの方法はどうするのかということが具体的に問題になります。それで私は、今、固定資産税の話をしてしまいましたが、ただ単に、ただでできるはずはない。僕は相乗りの話をして、きょうコミュニティ協議会の方、来られてはいますが、この市長答弁の中で、これ市長答弁ですよ、24年9月の、相互乗り入れの既成事実ができることと当社の判断だけで方

向性決定ができなくなるという問題があるという返事がありましたと。これはもうまさにそのとおりだと思います。簡単に相乗りができるなんてことは、先ほどの感情論とかいうのは全く捨象して考えても、営利会社で、そしてこれは7番議員が一般質問の中で調べたという話ですが、甘木幹線バスの中でも7,000万円の赤字が出て、全体的に34億円赤字が出ると。しかし公共性のある公共機関として今、存続させているというときに、この私たちのほうから甘木バス停を何とかしてほしい、整備してほしいという話に、これを中心課題にしていけば、それなりの覚悟とやり方があるのではないかと。

私は市長、3年間やられてきて、今の新プラン21は、市長の前の市長のときに計画されて実行に移っております。2期工事は市長が現職の市長として携わりますけれども、やはりここで1つの新しい市長としての考えと決断において、甘木バス停、甘木町町民の大半が望んでおる整備について決断という形でやっていかれるのが至当なやり方ではと思いますがいかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 先ほどお答えを申し上げたと思うんですよ。どういうことかといいますと、いわゆる西鉄はあの停留所は通過駅だという捉え方をしていますということを話しました。しかし、朝倉市にとっては、ほかのデマンドも含めて、甘観も含めて、あそこで乗りかえができると非常に住民が便利になるんで、あそこは市としてはセンターという考え方で話をしています。そうしますと平行線になるでしょうと話しました。しかし、それじゃいかなので、そこで何らかの覚悟をしなきゃならんと、市としても。そのことについてお話ししたとおりであります。今、実藤議員が言われたように、それは西鉄は過去は相当この路線でもうかっておりますけれども、しかし残念ながら今はああいう感じです。極端に言うなら、残念な話なんですけど、そこの下のバスセンター、あそこ市が駐輪場つくってますね、あそこ家賃を払いようらしいですよ、知らんやったけど。これがいいかどうかは別ですよ、そういう状況なんです。ですから当然、今、言われることは、実藤議員言われることは、私もそのことについての覚悟は持っております。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） これはきょう議員の3分の2以上の方が、22年3月19日、全員協議会で、塚本市長は最後の全協という形で提案されてきたものです。これのことについて、コミュニティ協議会の方で知らない方もおられるかと思っておりますけども、これはそのときテープ、私も聞きまして、2回聞きまして、当時の活性化室長がいろんな怒号の中で答弁をいたしております。その中に、これはこういう周辺の整備計画書が22年3月19日に出されて、そして新市長のもとにもう1回、検討を論議しましょうという形で終わっております。これは論議されていない、実際のところは私も承知してる限りにおいては論議もされておられません。せつかく、前市長がどうかこうかというのは別として、行政の継続性というのがあるわけですから、これがだめならだめで、こういう理由でこうしますという形は

あつてしかるべきだろうと思います。

そして、これはやはり多少ここに書いてある最後の答弁があるんですが、これは室長が答弁したのですが、これを作成するに当たってはということですが、西鉄不動産部、西鉄も参加をし、協議をして、構想づくりがされていますので、対価は別ですが、お金の問題は別ですがと、こういった構想については了解済みですと、西鉄との話し合いの中にこれが出されてきたというふうに答弁を全協の中でいたしております、これテープ2回聞きましたし、テープにそのとおり残っております。だから全く西鉄がそっぽ向いて、こういったバス停の整備について無関心だったと、いろんないきさつがあったからだめなんだというような、これは市長に対してじゃないですよ、町民の中にそういうふうな思いがあるとすれば違いますよと。この段階は正式にこれだけのものをつくって、一生懸命、職員も議員もかわりながらつくってきております。こういったものがあるにもかかわらず、市長は考え方として相乗りだと言われる。これは決して1つの市長の考え方ですから、私たちも相乗りは大賛成ですから、それはひとつお願いいたしますと。これを二者択一をしてるわけではありません。

市長もこの2月の段階の、去年の2月の段階で西鉄のほうに2つの項目を申し入れたと、1つは甘木鉄道との相入れの問題です、もう1つは、やはり西鉄バス停の整備ということで回答をされております。今はその整備の問題よりも、相乗り、相乗りというほうの話が、先ほどの午前中の話もありましたし、これの整備というものについて、相乗りはまた相乗りで、これは話し合いのもとで、お金がどれだけかかるのか知りませんが、整備となるといろいろな問題をクリアしなきゃいかん。私は並行してやるべきと。

これを時間が余り朝農問題もありますから多く使えないんですが、先ほどから私、ずっと財源の問題、財政の、必ず決算、予算、一般質問、国保会計、あらゆるところで私は財政の問題を取り上げてきておりますよね。早くしないといかんというのは、先ほど12番議員が言ったように、特例債が切れちゃうんですよ、次から次にのんでいく、事業がのんでいけばいくほど、一番おいしい70%も国が補助してくれるという特例債のこの措置が消えてしまう。最後のほうはほとんど使えなくなってしまう。これがどれだけを使うかということが先ほど質問があったわけですけども、まだまだ全体額からするとあります。しかし、それがどういうふうにするかという論議がまた新たにせないかんのですけども、こういったことを考えると、これは朝農問題にも後に伝わっていきますが、早く決断をして実行に移さないと、せつかくの合併をして特例措置、その1つとしての特例債を使うことができなくなる、これを私は心配しております。財源をいかに確保するのか、国の制度資金をいかに使うのか、こういった問題から、この西鉄バスセンターを何とか、トイレだけじゃなくて、昔のにぎわいを取り戻すための整備計画が森田市長のもとにできないものか、これが非常に、この点については市長は否定的であるというような話もちらちら聞いておりますので、そこらあたりを明確に御答弁願いたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） ずっと今、お話を聞いておりました。実は御存じだと思いますけれども、過去に西鉄はあの土地に集合住宅を建設するという計画ございました。その後の景気の低迷でそれが頓挫をした。そして、このいわゆるまちなか活性化協議会ですか、（発言する者あり）出された、いや、だから言われてる、から出されたものをもとに市のほうが、ただ、こうやって見ますと、まちなか活性化協議会の中に西鉄の社員さんも入ってるんです、協議会の中に。一番、あそこを開発していただくことは、することは賛成です、私も。じゃあそれを行政でやるのか、行政だけでやるのかという問題なんですよ。だから言われますように、それはこの計画がどうする、金額的にどうするという話だけじゃないんです。これ見ると、市が全部買い取ってやるという判断しか僕は聞いてませんので、そういう判断しかできない。じゃあ行政でそれだけ全てやるべきなのか。少なくとも今の所有は西鉄という民間の会社です。ですから当然、市としてバスセンター機能として必要な部分については、市としてもそんだけの覚悟はありますよと。先ほど申しましたように、内容としては別に。しかしそれとともに、じゃあ所有している西鉄さん、この場については、ひとつどうかしてくださいよという話が今から出てくるんだと思うんです。はなからじゃあ全部市が買います、それは西鉄、楽ですよ、行政が買うと言うんだから。おまけにその中には西鉄の社員もまちなか活性化委員会に入っているということですから、ですから、そこらあたりだろうと思うんですよ、考え方。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） まさに核心に入ってきたわけですけど、交渉事というのはどちらが対等でやるのか、一方がお願いしてやるのか、いろいろあったから1つの端緒ができましたという話で、何十年というふうに、日露なんかの話は北方領土問題、それから最近はやりの北朝鮮の飯島さんが行ったというはやりという意味はそういうことですが、ぼっと報道されて何か突破口があった、裏を話で聞いてみると、話だけはしたという話で、それから先は安倍首相がどれだけやるかという話になって、これはもう明らかにされてきておりますが。

この問題は、西鉄の不動産部を通じて全部買い取るかどうかというのは1つの方法論ですよ、これを決めつけて言えば、市長はノーだという形をとることもあるでしょう。しかし、これは話し合いの中で、先ほど借地をしてから、その駐車場のことも言われました。やっぱり現実的に今、やらなきゃならん。これは朝農問題もそうですけど、いつやりますか、今でしょうという今の物すごくはやり言葉になりましたが、本当にそうだと思いますよ。一日一日、この2回の折衝でこの前、24年9月のときに一番最後に、これ何て言われたかと、これ市長の答弁ですよ、バス停分、トイレ含めて、バス停の整備、お互いにやっと交渉のテーブルに着いたところだと、3年たって、やっと交渉のテーブルに着いたのに、相乗りは先ほどのような問題で、西鉄がそれを相乗りしたら、ダイヤその他、いろん

な問題で自分たちの決定権が大分、話し合いをしていかないかんとなるから、それでは今のところ承知できませんというのが回答されたとなってる。相乗りの問題を突き進めていったら、まず私の予想で3年内にできるかどうかだ、相手方もおるわけですから。かなり時間が、これ3年内というのは1つのあやですよ、明確に私は行政の長ではありませんので、ぐらいかかる経過だろう。それから、じゃあ具体的にこの用地を整備していく、バス停を整備していくという話になってくると、また時間がかかる。そうするともう大体3年から6年、9年、具体的になってくるのはそういうことだと思います。

この問題、朝農問題もそうですよ、時間がないから一緒にそこだけ話しますけど、19年からもう6年近くたってるんです。市長が就任されて3年、そして21年の9月に出された朝農の計画案がほとんど90%同じものが24年の2月に庁内検討委員会から出されてきて、そしてまた、それからまた1年たって、今日の4月か、4月にこれが出てきたわけですよ。私はどちらにしても、市長は執行権、予算権がある長ですから、1つの自分の決断においてやることのできる。恐らく西鉄の話が中途半端になってはいけませんので、時間経過がかかると、いよいよ朝農問題の問題でやっていこうとしたときに、お金の補助金の問題がなかなか厳しい時期に当たってくる、計算しますとその時期になる可能性が大いに多い、あと7年ですからね、32年までは、その以前ですからね、もう実質的には5年ぐらいしかないんですよ、5年ぐらいしか。だからその間にこのおいしい、非常に益のある合併特例債を使う、こういった形でないと、具体的にもう話を進めていって、テーブルの緒に就いたというような答弁が24年9月ですけど、2月の段階においても、そして、その話し合いが現実的には、この前の本通り商店街の席でマイクを持たれた市長から私は聞きました。こんなあり方でいいんでしょうかね、議会は。全協でもこの話はほとんどない。この前の先ほどの問題であって、基本合意、あれをするかせんかを4月の段階でしたという話、バス停の話をしてないということをはっきり言ってる。具体的に市長のほうからバス停のほうの問題で議会のほうに出されてる、一般質問で聞くだけ、だから、いよいよ私はこの問題を取り上げないかんとって言うのです。

市長、もう1回、バス停の整備について、市長の智恵と決断というのがあると思うんですよ。ぜひオール・オア・ナッシングというような感覚ではなくて、西鉄にも益があって、ウィン・ウィンになるのかどうかわかりませんが、例えば借地をしながらでも建物だけは整備、トイレも含めて市がするとか、こういう方法も決して悪い方法ではない、総額4億円とか5億円とかいう、だからこれ財政課長とも話をして、どういう制度でできるかという話をしてまして、まだ具体的に、また、これ第2段で9月にやりますから、時間が足りませんので、一応、きょうの時間内の範囲内でお答えをいただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 当然、例えばバス停の問題について財源が特例債とか、そういう話じゃないんですけども、それは当然、特例債というものについては最終年度が決まっ

てますんで、それはそれとしてきちっと頭に入れながらやってるつもりであります。

バス停の話についても同じ話じゃないんだろうかと思うんです、実藤さんが言われる。それなりの覚悟をきちっと持ってますよという話ししてます。よく言われるんですけども、一般質問のときしか言わんじゃないかと、しかし、はっきりまだまだ決まってない、相手がある、そのとこに、今のとこ、こげな話ですからということ、じゃあ例えば全員協議会でもいいんですけども、そこで話ができるものなのか。やっぱり私としては、ある程度のきちとした将来決まるというか方向性が、それがなったときにやっぱり議会の皆さん方に報告するというのが本来だろうし、もしこういう形の場合で一般質問で質問されれば、うそ言うわけにもいきませんので、それは当然、お話ししますよね、そういうことだろうと思います。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 23年11月に甘木地区コミュニティ協議会名でもって、この、これは甘木地区の要望書という形で出されております。まちづくり活性化協議会のような形ではありませんが、それに対する回答というのが、きょう1年半たつとるわけです。私どももこれは非常に重要な課題ですので、一甘木町というだけじゃなくて、私の視点は先ほど言いましたように朝倉市全体の活性化を含めていく税と、そして光をあそこからもたらしていくという考え方のもとに、これ私は取り上げております。みんなそうだと思うんですけど、私だけじゃなくて。この問題は、1年半たつても、市長は全協ではうまく具体的な話が出てないので説明するのはどうだろうかと、一般質問だと答えますという話ですけど、1年半たつて、私たちは具体的に直接聞いておりませんし、こういう経過になつてというのも定かでない。このような状況の中で、コミュニティの皆さん方からどうなつとるの、どうなつとると言っても、こういうふうな話。そして一番最初の話のような話を聞いてくると、これは何とか整理していかないと、地区協議会としても、私どもとしてもこの問題についてどう対応していったらいいのか焦点が決まらない。あくまでも乗り入れを優先順位の1番としてやっていくのか、それともバス停の整備、トイレを含め、駐車場はまた別としても、あの周辺を新たに森田市長として、そのときに西鉄との話し合いの中で用地取得、あるいは用地借地、借り上げ、その他、いろいろな話が出てくるでしょう。

私はそういった問題を現実的に早急に、2月の話できょう6月ですからね、これ回答がまだあつてないと室長は言っております。これいつになるのか、あつという間に来年の4月になります、あつという間に。西鉄のほうは自分のほうから、先ほど市長も言われましたけど、動くという必要は余りないんですよ。であれば、朝倉市の私たちのほうから何らかのアクションを起こしていかなければ、向こうの要望を聞いて、回答を待って、それに対応しますという形を何年たつてもこのことを繰り返す限りは、私はこの問題は解決しないというふうに思いましたので一般質問に立っております。一般質問ですから、その点について、市長、お考えをお願いいたします。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今、西鉄のほうからアクションを起こさないだろうという話がありました。どこまでそれが相手のことが本当かわかりませんが、いわゆる不動産部のほうでいろいろ検討はなされておるといふ報告は受けてます。ただ、それがどこまで本当なのか。はっきり申し上げまして、またこれはこういうところで言うと、また西鉄に怒られるかもしれんけど、西鉄としては丸々市で買うてもろたほうが一番いいと考えてるのかなという気もいたします。ただし、そういった中で言われるように、もう何度も言いますけれども、当然、西鉄は営利会社として、社会的責任についてもあります、会社は。ですから、現状のままでは平行線だろうと申し上げました、考え方として。ですから当然そこには、市として決断すべきものはしなきゃならんでしょうと。ただし、それはもう何度もここで話をしておると思います。内容についてはまだどこも言いませんよ、例えば全部買いますとか、そういう話はしませんけれども、市として当然、やるべきことはやらないかなでしよう、これはもう前から担当の課には伝えてますんで、その中で話をさせていただいております。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 私も2年前に議席いただきまして復帰しまして、この問題については初めて質問いたしております。今まではいろんな方の御意見を、質問を聞きながら、そして、それを起こしながらきょう整理したつもりです。なかなかやっぱり問題点が多く、簡単には解決しませんが、きょうこの一般質問やりましたので、9月やります。室長、あなたが今度の担当みたいだから、違うか、活性化、その当時は青木室長だけでも、今は井上室長かな。これ、私もきょうコミュニティ協議会に来られてない方に対しても、これ必ずコミュニティ協議会の何か会合のときとか、いろんなときに話が出るんですよ。こういう話を今、しております。きょう聞いていただいた方もおりますので、これでもう消化不良で終わる可能性が非常に多いんですが、まだ9月ありますから、その間にこの問題について西鉄のほうとの関係がどうだったのか、そして、それは相乗りの問題だけに終わるのか、相乗りの問題だとすると、なへんに問題があるか、これは青木室長が一応、森田市長もさっき言ったように同じことになりますから、彼らには彼らの論理で否定してるわけですが、不可能だと。今度は整備についてどうかというときに、甘木のほうで22年の3月19日に出されたものを、森田市長としてはそれを踏襲するかどうかは別として、新たなこの自分たちの考え方としての案を出すべきだと私は思います。これはもう就任後3年、そして今、何回も何回も同僚議員が質問に立ち、コミュニティ協議会からも要望書が出され、そして、この結論を即回答が出るとは思いません、西鉄との関係で。しかし、朝倉市のスタンス、これだけは、特にカードは何なのか、カードを見せ合っていくからどうのこうのという話じゃありませんけど、先ほど市長も言われましたように、西鉄のほうとしては私も交渉、自分も用地買収もしましたし、開発行為もいたしましたし、いろんなことを経験して

おります、相手がおることです、いろいろなやり方があります。しかしながら、これは何とか実現しようと思えばできるんです。方法はいろいろあります、議会のほうから反対が出るかもしれません。しかし、それはそれとして、全体的に総合的に考えたときにどうなのかということ、私は先ほど申しました初心に戻って、そして、たとえ嫌われようと、どんなふうに使われようと、私はこれはこうしなきゃならん、将来の朝倉市の明かりを消してはいかんというふうな気持ちでやっていきたいと思えます。

市長、最後に、この問題、次に移りますので、御答弁をお願いします、決意を。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） もう決意、何度も申し上げましたように、もうあそこについて、私は最初から言うように、まずは乗り入れだ。当然、その話の中に、それだけじゃ済まないでしょうという話が出てくると思えます。ですから当然、そういう形でやらせていただきたいと思います。ただ、言うように、全体的な開発を市がどうこうということについては、現在のところは考えてないということです。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 相乗りの話だけで優先的にプライオリティー、優先順位としてやるということになれば、私はかなり厳しいだろうと。これが将来的な西鉄の営業のあり方にもかかわるんですよ。今、端線といいますか、を全部処理して、幹線をどうする、そしてダイヤをどうする、乗り入れをどうするという、この甘木だけじゃなくて、西鉄はもういろんな意味で採算ベースに乗れるような何とかかんとかで考えてます。それを独自でやりたいというのは当たり前前の話で、乗り入れは。しかし、さきに用地の整備がなされてくると、必ず雰囲気が変わる、状況は変わります。その状況の中から相乗り、乗り入れをするという考え方が、私はこの問題解決、そのときのカードは、それはやはり全部金出して買うかどうかというのは一応置いていても、何らかの方法を考えていくべきだと、決意はもう何回も述べたということです。この点については、また9月に再度、いろいろ状況を把握しまして、今度はまた別の角度からでも質問したいと思います。

続きまして朝農問題、時間が余りなくなっただけですが、これは問題点を指摘したいということです。19年のときにこの問題が出てきて、21年の9月に塚本市長、井上、同じ井上ですけども、恒夫総務部長のときに計画案が出されてきました。その後、市長が、森田市長がなられて、24年の2月に検討委員会なるものからの基本方針が出てまいりました。見られたらわかるように、90%から95%同じ。

その後、今度はこの今回出されました、4月に出されたんですけども、25年4月に出されたんですけど、これが円のベン図みたいなゾーンが出てきてます。これ、皆さん見て、それとどこが違うかと、ここは同じものです、エリア1、2、3というのがあって、この文面は、ほとんどその写しです。この写真は、当然、どこからか写してきて持ってきてます。こういう状況で、うわ、前に進みよるねと言った人がおりました。私は今回の一般質

間で、誰が誰というふうには言いませんが、聞いたら、一つ一つ聞いていったら、いや、まだ具体的な計画段階ではありませんという答弁が出てきました。

特に私は2の農と憩いのエリアというのが非常に売りだと思ってましたけど、これ2ヘクタールということです。しかも貯水池がありますけど、これも調整池と書いてますが、どれくらいの広さでどれくらい、これ大変難しいんです、水を積む、簡単、私もそれペンションでやりましたけども、こんな厚いコンクリートでがちつつくって、深さも計算して、容量計算してやります、かなり大変です。これがどれくらいかあるかわかりません、それ差し引くんですよ。こういうところに人を集めてメインにしないといかん。そしたら体育館のほうは3.5ヘクタール。3番目の農林業団体誘導エリアが4ヘクタール、これ、こう見て、だつとあるんですよ。

これは今のところ、農協が来るということで、先ほどから総務部長が基本合意に、私たちは覚書と思ったら、基本合意にいつの間にか変わってましたけど、ここあたりもしっかりと、言葉が間違いましただけじゃ済まんのですよ。なぜか、これはもう時間がありませんけど、私の経験1つ、私が54年に議員になったときに最初に久留米大学が今の美奈宜の柱に進出してくるという話がありました、54年。そして基本協定まで結びました。ところが、私もその席に行きました。しゃんしゃんしゃんの手打ち式にも参加しました、54年、塚本倉人市長のときです。ところが、しばらくしたら学長と理事長との争いによって、その基本協定も崩れてしましまして、その紳士協定は全部流れてしまった。そうしますと、これ今度、6月の終わりごろに総代会があるそうですが、これは今回話がはっきりしませんから、これは確かにうわさです、組合長がかわるという話を聞いております、どうなるのかわかりません。しかし、新たな形で展開して行って、本所が来るという私の友達が農協関連者が言いました。実際聞いたら、そんな話は市のほうは全然ないと、まだ全然ない、俺も知らんよという話でした。どんどんどんどん話があつて、じゃああんたたちは有償な、それは無償な、農協が来る、これからです。ただ、進出するということが話に決まって、今度調印された。ところが、これからどういう規模で、本所も、あるいはただ単にここに書いてあるものだけが来るのか、これ1つ、話し合うにしても、トップ会談だけで決まる話では恐らくなかろう、農協のほうは。いろんな理事、何ていう名称か知りませんが、そういう人たちとの話し合いの中で決まっていくんでしょう。そして、お金の問題が絡んでくると、これは先ほどの話じゃないけど簡単にはいかない。とすると、これから先の合意をとっていくのにも相当な時間がかかる。そして今度は具体的な話でこれを張りつけていく、しかもこれは林業部、森林組合が来るかもしれない。そしたら、どこにどれだけ入るか、こういう話。これによりますと民間団体の農業振興関係の団体も入れたい。となりますと、これをどれを持ってきて、これをどこに配置して、どういうものをつくるかというだけでも1年ではとんでもない話です。皆さんが引き受けて、市長が引き受けて3年たつて、やっと21年の9月のときのがこういう図面になってしまったという話です。

私は否定的なことを言ってるんじゃない。早く、市長の売りがこの中に何があるのか、みんな今まで、私、2年間でしたけど、森田市長と、今、1年がスキップしてますので、そうすると庁内検討委員会、現在もそうです、今度は片山副市長を中心にしてやります。森田市長はこの朝農跡地をどうしたいんですか、みんなの意見を聞いてやりますということで問題点がここに、これ興味のある方は、ぜひもらわれて問題、これ読まれたほうがいいと思いますけども、相当の時間がかかる。しかも市民の憩いと農の問題を私は提起しました。一般質問で1つの形をつくったのは、多分、私だけだと思いますが、あれができるかできんかは、私は執行権もない、予算権もない、市長でもありませんから残念ですが、やはり市民が本当に喜んで、観光の人たちがここに来てリピートして喜ぶ、そして農の世界もこれで生きていく、私は農と観光と市民の憩いの場にするって、最終的には太陽光を含めて自家発電して、イルミネーションまでつくって地産地消やるという話でしたんですけど、そうすると人が必ず386というバイパスの中に来る。これは私の1つの発案です。

森田市長、市長として、今、具体的に時間が足りませんが、これ非常にまた時間がかかる、物すごい時間がかかります、これは。計画練って、これから具体的に3年、実行に移して3年、最終的な完成に至ったら3年、どんなに早くても5年、遅ければ10年かかります。簡単にはなりませんよ、開発行為と相手がおることですから。市長、市長の見解をお聞きしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 時間はある一定の時間かかろうかと思います。ただ、それ以前に今、お話がありました、いわゆる調整池ですとか、排水の問題です、調整にかかわる排水の問題、それから下水の問題、井戸の問題、今、それを鋭意しております。これだけでも恐らく来年できるという話じゃなからうかと思えます。しかし、それがきちっとできないと、ここは活用ができんというのもまた現実でありますんで、なるべくこっちを急ぎながら、その間に詰めていくと、きちっと、という考え方でおりますんで、当然、先ほども言いましたけども、特例債とかそれを含めて、当然、頭に入れた中で進めさせていただきたいというふうに思えます。

一方、もう1つある。その民間の問題、一応の話については、これはいろいろ言われますけども、30回ぐらい、実際に事務レベルで協議をしています。そしてその中で、私自身もこういうものをぜひやってほしいとか、こういうあたりをやってほしいと、それは言ってます、委員会の中に私、入ってませんが、首長としてそういう話はさせていただいておりますんで、私の考え方というのはその中に入ってくるというふうに思えます。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 次回、9月にまたこれ継続してやりますのでよろしくお願ひします。

私の質問を終わります。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員の質問は終わりました。

以上で、通告による一般質問は終わりました。

これにて一般質問を終了いたします。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

本日は、これにて散会いたします。

午後4時28分散会